

## 巨樹・巨木シリーズ-9 新潟県の巨樹・巨木

細田木材工業株式会社  
顧問 細田 安治

今号ではいよいよ巨樹・巨木の本場ともいべき新潟県の樹を紹介する。

その前に「木材や」としては非常に興味深い佐渡ヶ島及び北前船<sup>きたまえぶね</sup>について述べたい。佐渡ヶ島は、新潟県沖30Kmに位置し、日本海最大、東京23区の1.4倍の大きさを誇る。江戸時代に開かれた佐渡金山の豊かな財源を武器に、北前船の日本海ルート交易中心地として、地域経済を繁栄させてきた。また、佐渡ヶ島には、大小の木造船が建造され、北前船の基地としての機能も果たしてきた。北前船とは輸送船とは異なり、船主が直接商売品の売買もする廻船(かいせん)をいう。

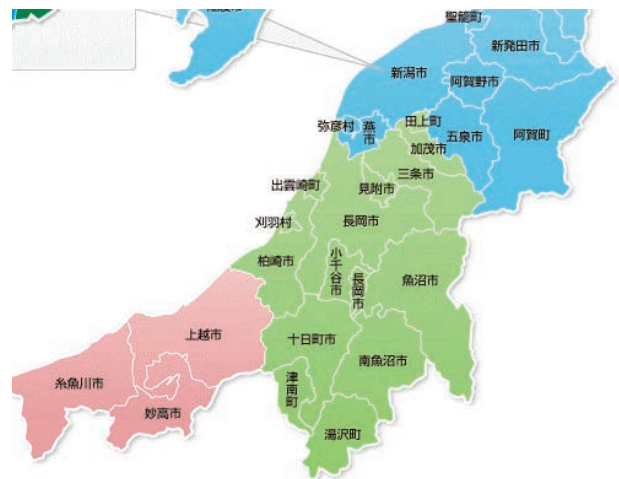
関西地区の人々が日本海側を「北前」と呼んだことから日本海側を中心に廻る船を北前船と呼ぶようになったといわれる(参照 ウィキペディア)。

佐渡市にある小木民俗博物館(千石船「白山丸」<sup>せんごくぶね ほんくさんまる</sup>展示館)には千石船としての白山丸が保存されている。千石船とは主に江戸時代から明治にかけて造られていた木造大型帆船である。米を1千石(約150トン)ほども積める弁財船が後に千石船と呼ばれるようになったという。「木材や」「木造船」しかも筆者の住む町名と同じ「千石船」とは嬉しくなってきた。

白山丸については何度か触れたが、現物は未だお目にかかっていない。いつか佐渡を訪れ、この木造船を確認したい。

ところで、最近の各地で「アーバンベア騒ぎ」でもちきりである。新潟県の公式ホームページを開くといきなり「クマ注意」と出てきた。ついでには本資料の提供者U氏のこれからの行動が心配になってきた。U氏にはくれぐれも「熊にはご用心」をお願いする。

新潟県は東北の近接3県なかでも日本海に面した中核県として存在感のある県だ。まずは今回のU氏の行程を説明することから始める。



新潟県調査地図



ツキノワグマ注意情報

## 近接3県の比較

県名	人口 万人	面積 Km <sup>2</sup>	GDP 億円
新潟	222	12580	8兆8千
山形	102	9325	4兆3千
福島	184	13780	7兆7千

### ◇新潟でのU氏の調査

新潟県は三つの地域、即ち南から上越、中越、下越に分かれている。下越から中越の巨樹を巡り、下越の入り口の川口大銀杏を制覇し一泊、ここまで約400Km (384.5Km) 走破している。翌日、下越の境目に位置する磐越道を西に向かい日本海に至る。この間には巨樹・巨木は見当たらない。三川の将軍杉を経て日本海に沿って長岡まで南下し、西へ向かい長野県境の杉之当大杉<sup>すぎのと</sup>を制覇する。合計20本の巨樹調べは2日間にわたり、500Km以上を走る。よくぞここまで調べたものだ、と改めてU氏の調査に対する熱心さには感動を覚えている次第です。お疲れ様でございます。

さて本題に入る。

### ◇新潟県の巨樹・巨木の判断基準

U氏の調査による20本の巨樹・巨木のなかから8本を選んだ。選考の基準は以下のようなものである。

1. 風雪に耐え毅然としてどこも痛まず生き抜いている樹、人間にたとえればびくともしない百歳時代の健康老人
2. 雨風に叩かれ、雷に打たれ、枝をもぎ取られながらも負けてたまるか、の気迫が漂う樹
3. みるからにどっしりとして何物も寄せ付けぬ重厚さを持つ樹、大相撲の横綱の威厳ある強さを思わせる
4. 揺さぶられるも柳に風と受け流す強靱な幹と枝で、しなやかに大自然と闘う樹、四方八方手を延ばす事業家のイメージ

#### 荒谷毘沙門堂の大杉 樹齢300年以上、樹高34m、樹周7.95m

巨樹のなかでは長寿ではないものの、四方八方手を伸ばす働き盛り、しかも赤みを帯びた木肌は、顔色の良い壮年の事業家の活力を感じた。そもそも杉の木とは真っすぐ伸びるのが特徴だがこの木は「さにあらず」。杉としては珍しい部類に属すると判定した。湯沢町指定天然記念物

#### 大家の大樺 樹齢1500年、樹高22m、樹周10.2m

樹齢1500年とは、現地の案内板にあるものだが、この案内板がいつ誰によって立てられたものかは不明である。現在では「樺苑」という料亭の敷地内にある。樹の前に小さいながら石塔があり樹齢1500年かは不明だが、幾年歳月の中で人々に崇拜された樹ではないか。



荒谷毘沙門堂の大杉  
新潟県南魚沼郡湯沢町神立

樹としては年輪を思わす大きなコブと、木肌には無数の傷と、  
銘木の証拠としての玉杓が浮きだしている。

こつなぐす おしや  
小貫諏訪社の大杉 樹齢800年、樹周8.9m、樹高38m

枝張りは東に11.5m、西7.9m、南に9.3m、北16.7mに及び、魚沼地方最大の杉である。根元で大小の2つの幹に分かれて成長しているが、主幹は真っ直ぐに伸びている。以前、神社の境内を広げる工事をした際に、この木の根元に土盛りを行ったため1メートルほど根元が埋没した状態になっている。

この杉については、800年以上前に小貫集落を開拓するため赤倉地区から移住してきた人々が神社を祀ってその記念として植樹したとの言い伝えがある。集落に住む代々の人々はこの杉を「御神木」として崇敬し、「ナタいらずの木」として刃物を忌んでいた。燃料の乏しい時代であっても落ち葉は燃やさずに木の根元に掃き集めて返し、正月に使ったしめ飾りも根元に返し、古いお札は杉の樹皮の割れ目に差し込んで納めていた、と語り伝えられている。なるほどこの説明のように推定樹齢の裏付けが代々言い伝えられていることが根拠となっていれば推定樹齢に信ぴょう性があることになる。また樹の前の古い石塔にも、自然を崇拜していた人々の素朴な思いが伝わってくる。この樹が持つエピソードには感動した。尚、この木を選んだもう一つの根拠は樹のもつ神秘的なオーラにひかれたこともある。

(一部ウィキペディア参照) 新潟県の天然記念物

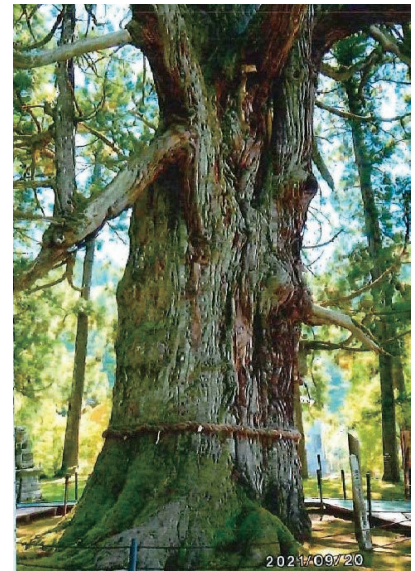
将軍杉 推定樹齢1400年、樹高38m、樹周19m

「昭和2年(1927)に文部省より天然記念物に指定された。我が国における日本一の杉である」と説明板にあるが、環境省の平成12～13(2000～2001)年の全国巨樹・巨木林フォローアップ調査にて鹿児島屋久島の縄文杉を抜き、名実ともに日本一の巨木となった。

この樹の特徴は、根元近くから6本の大きな幹に分かれており、中央の大支幹、つまり本幹というべき幹が昭和36(1961)年の第二室戸台風で折損した。将軍杉の名の由来は、平維茂(たいらのこれもち)の業績をしのびつけられたものとされている。写真ではあるが、どしりとした頼りになる鎮守様の権化を見たような感に打たれた。現場の樹はさぞかし素晴らしいものだろう。国の天然記念物



大家の大欅  
新潟県南魚沼市六日町長森



小貫諏訪社の大杉  
新潟県十日町市中條丁



三川の将軍杉  
新潟県東蒲原郡阿賀町岩谷

<sup>ぼうがね</sup>  
**坊金の大杉** 樹齢800年以上、樹高25m、樹周8.5m

坊金の由来は、近くの寺の坊さんが時刻を知らせる鐘をこの木につるしたことからこの地名になったといわれる。また、上杉謙信公が直峰城との連絡のためにこの木を使ったともいわれている。

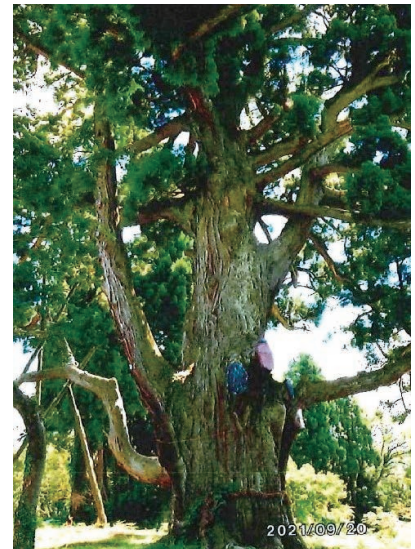
この杉は四方八方に手足を伸ばしわが身を守っているような雰囲気感を漂わせている。中ほどでは、枝が絡み合い互いを助け防御し、また外敵との戦いに備えている戦車を思わせる雰囲気だ。ここまでしっかり守れば、少々雨風にびくともしないのでは。

<sup>ことびしゃ</sup>  
**老いの木 琴毘沙神社の大欒** 推定樹齢800年、樹高20m、樹周約7m

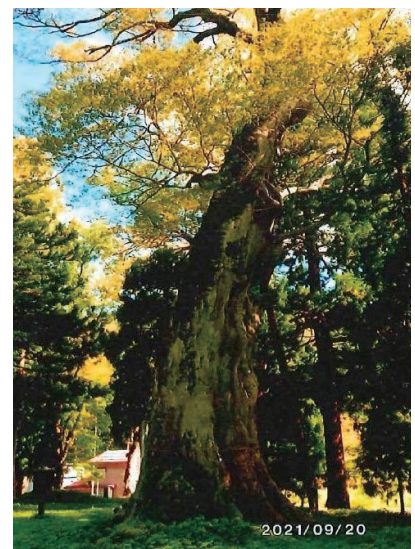
神社の神木になっているこの大欒は、「歳老いた風格のある幹肌」のせいか、地元の人々はこの木を「老(おい)の木」と呼んできた。筆者はこの「おいの木」とは、「なんの木」かがわからずに「この木なんの木、気になる木」であったが、「歳老いた木」の意味で、樹種は欒と判った。写真で見る「老いの木」のたたずまいを、人の「からだ」と見立てると合点がいった。両足でしっかりと立つ姿は正に「人そのもの」である。やや猫背気味だがこれも年輪のなせる業(わざ)とし、幹肌に皺が目立つも、筋骨隆々とした見事な体格で、正に素晴らしい「老いの木」であり、「老いてますます盛んなり」の象徴的な樹と理解した写真ではある。この樹の黄葉は銀杏のそれと見まがうようなすばらしいものである。

**虫川の大スギ** 樹齢1200年以上、樹高30m、樹周10.6m

この大杉はこの地方の総鎮守白山神社の神木として古くから大切に保存されてきた。枝張りが大きく広がっていて、東方へ14m、西方13m、南方8m、北方12mに達している。幹の西側4mに、大きな穴が開いているが、これは安政年間(約120年前)の大雪で大枝が折れたため生じたものといわれている。この樹は、全国でも有名な大樹である。この巨樹のたたずまいは一目見て大相撲の横綱を想像した。しかも大型力士である。横綱照ノ富士の全盛時代を思わせ、何がぶつかっても少しも揺るぎのない頼りになる樹ではないか。国指定天然記念物



坊金の大杉  
新潟県上越市安塚区坊金



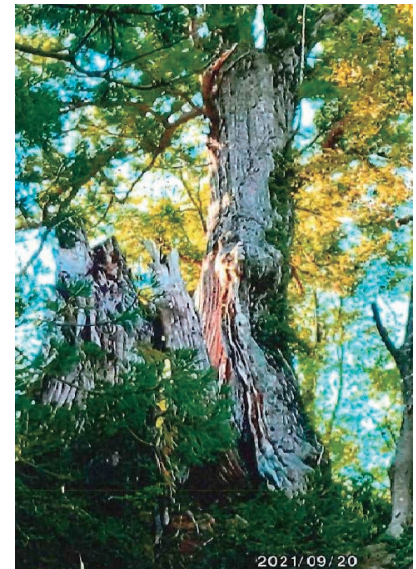
老いの木  
新潟県上越市牧区高尾



虫川の大杉  
新潟県上越市浦川原区虫川

杉乃当の大杉 樹齢300年以上、樹高28m、樹周13.3m

スキー場のゲレンデのすぐ脇にある白山神社の境内の数m崖上に立っており、もとは2本の融合樹だったようだ。この大杉は雷に打たれたのであろうか、また強風に見舞われたのか、あるいはいくつかの自然の大きな力が重なり、真っ二つに割けてしまった。裂け損じた幹の半分以上を切り、幹の残り3分の一程度を残しているのみである。首の皮一枚が残った感じである。しかも切り裂けた部分の木肌はまだ変色せず新鮮な木肌がそのまま残っている。たった今折れたかのような新鮮な木肌が剥き出しになっており 生々しい被害の様子が伺われる。新潟県指定天然記念物。続く



杉乃当の大杉  
新潟県糸魚川市杉之当

◇ドラッカーの名言—10

12月現代の経営

序論マネジメントの本質

- 第1章マネジメントの役割

ドラッカーの理論	ドラッカー的行動	「木材や」の使命
事業に命を吹き込む	資源 1. ハード 2. ソフト	活用 1. 造り方、使い方、仕様改正、機能化、 2. 人的資源育成活用 マネジメント能力習得、向上
国力の向上	法の改正	政治家の育成、国への働きかけ、
経済発展を支える	経済の活性化	需要の創造、関連業界との相互協調

以上